

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

今週の注目材料 = ウクライナ情勢をにらむ

2022年3月21日

先週米連邦公開市場委員会(FOMC)などの重要イベントをこなし、今週はそれほど目立った米経済指標の発表が予定されていないこともあり、ウクライナ情勢をにらみながらの展開が続くと見込まれます。

そうした中で注目を集めているのが24日にNATO本部のあるベルギー・ブリュッセルで開催されるNATO緊急首脳会議です。同会議にはバイデン米大統領も訪欧して対面で参加する予定となっています。ウクライナ支援強化、NATOの一員であるバルト三国などへの戦力増派を進める中で加盟国が攻撃された場合の集団的自衛権行使の確認などが話し合われるとみられます。

ウクライナはNATOに対して、領空に飛行禁止区域を設定することを求めています。ゼレンスキー・ウクライナ大統領は先週行われたオンラインを通じた米議会での演説でも同要求を行っていました。その為、今回の緊急首脳会議でも同問題が議題に上がる可能性があります。このウクライナの要求に対しては、NATO側は否定的な姿勢を維持すると見込まれています。

ウクライナとロシアの問題については、両国間での停戦協議が複数回行われているものの、合意には至っていません。ただ、前向きな進展を期待する動きが強まっており、一時のリスク警戒感は後退しています。とはいえ、先行き不透明感は継続しており、キエフなどの主要都市への攻撃が一層強まり、占拠への道筋が見えるような状況になると、一気に警戒感が強まる可能性があるだけに、警戒感を持って状況を見守りたいところです。

なお、リスク回避局面ではドル円を除くドル買い、リスク警戒感が後退する局面では、短期的にドル売りが入っても、先週のFOMCなどを受けて今後の金利先高感からのドル買いが強まるという流れで、ドルはここにきていずれにせよしっかりとしています。こうした流れに変化が生じるかも注目です。

経済指標では23日の英物価統計(2月)が注目されます。消費者物価指数(CPI)、生産者物価指数(PPI)、小売物価指数(RPI)などが発表される中、特に注目を集める指標が、インフレーターゲットの対象である消費者物価指数(CPI)の前年比です。前回1月のCPI前年比は5.5%と1992年3月以来、約30年ぶりの高い伸びを示しました。この結果を受けて2月の英中銀金融政策会合(MPC)では一気に0.50%の利上げを行うべきという主張を行うメンバーが9名中4名と、実際に行われた0.25%の利上げを主張した5名に迫る状況を見せました。

その後のウクライナへのロシアの軍事侵攻を受けた先行き不透明感もあって、先週行われた最新のMPCでは、3会合連続の利上げが実施されたとはいえ、9名中8名が0.25%の利上げを主張し、一名が金利据え置きを主張するなど、積極的な利上げを主張する動きは見られませんでした。

しかし、2月のMPCでは今後の物価について4月ごろに7.25%まで上昇してピークを迎えるという見通しを示していたのに対して、先週のMPCでは4-6月期に8%程度まで上昇

し、年内さらに物価の伸びが高まるという見通しを示すなど、インフレ見通しを大きく引き上げています。

こうした状況の下、今回の英CPIの予想は前年比+5.9%と前回からさらに大きく伸びると見込まれています。予想通りもしくはそれ以上に高い物価上昇が見られるようだと、次回以降の大幅利上げに向けた市場の期待が強まるとみられます。米国の追加利上げ期待が高まる中、英国も積極的な利上げ姿勢が期待される状況が見られると、ポンド、ドルともに買い材料が意識され、対円などを中心にポンド高が進むと期待されま

す。

山岡和雅 | bu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。